

## 「第14回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年10月8日(木) 15時10分  
都庁第一本庁舎7階 大会議室

### 【危機管理監】

それでは、第14回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日は、感染症の専門家といたしまして、都の新型コロナタスクフォースのメンバーになっていただいています、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃる大曲先生にご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

なお、本日につきましては、東京 iCDC 専門家ボードの座長でいらっしゃいます賀来先生につきましては、所用のため欠席されております。

議事につきましては、お手元に配布しています次第に従って実施をして参ります。

それでは、早速であります、第2項目目の「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、大曲先生からご説明をお願いいたします。

### 【大曲先生】

国際医療研究センターの大曲と申します。

今週の状況ということでご報告をいたします。

本日、一人で参りましたので、まず全体の状況をまとめて申し上げたいと思います。

1枚目です。まず、「感染状況」でありますけれども、総括としては、「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」という判断であります。4段階で上から2番目であります。

新規の陽性者数と接触歴等の不明者数は、まだ高いという状況であります。

今後、様々な取り組みの中で、経済活動が活発化していく中でですね、感染拡大リスクが高まるということがありますので、警戒する必要があると考えております。

「医療提供体制」に関しましては、「体制の強化が必要であると思われる」、これも4段階の上から2番目ということで判定をしております。

医療機関への負担が強い状況が長期化しているということは、現実にございます。

入院の患者数、あるいは重症患者数の推移に引き続き警戒が必要ということで、判断をいたしました。

それでは、具体的な内容についてご紹介します。

まず、「感染状況」です。

まずは、①の「新規陽性者数」でございます。

新規陽性者数でございますけれども、7日間平均は、前回の9月30日時点の約184人から、10月7日時点の約162人と、今回は減少しております。

増加比でありますけれども、前回の 126.5%から、10月7日時点の 88%と、今回は低下しています。

この増加比ですが、下がっておりますけれども、引き続き 100%に近いという状況です。

今後、様々な取り組みを行う中で、経済活動が活発化する。あるいは今回のクラスター、今週ありましたけれども、複数のクラスターが発生する。そうすると、新規陽性者数が増えるということに繋がりますので、警戒が必要と考えております。

新規の陽性者数ですけれども、週当たりでいきますと、1,100 人を超える高い水準です。

絶対数としては大きな数でありまして、今後増加傾向となることに警戒が必要と考えております。

それでは、図の方は①-2に移ります。

9月29日から10月5日まで、この報告では、年代別の分布ですけれども、10歳未満が 2.9%、10代が 4.3%、20代が 25.9%、30代が 20.4%。40代が 15.8%。50代が 12.3%、60代が 6.8%、70代が 6.7%、80代が 4.0%、90代以上が 1.1%でありまして、9月22日から9月28日まで、これ前週と申し上げますが、ことと比べますと、40代の方々が減少しております、70代と80代が増加したという状況であります。

もう少し具体的には、新規の陽性者数、1週間当たり 1,218 人、この中に占める 65 歳以上の方の人数が 175 人でありました。全体の 14.4%ということでありまして、増加傾向が続いております。

次は①-4にお移りいただけますでしょうか。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合でございますが、同居する人からの感染は、前週 31.9%が今回 30.2%、ほぼ横ばいでありました。

ただですね、施設、具体的には、保育園・学校等の教育施設、そして特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院といったところでの感染が増えておりまして、10.7%から 16.7%に増えておりました。それに次ぐのが会食で 13.2%、職場 13%、接待を伴う飲食店等の 3.5%というところでありました。

前週と比較しますと、職場での感染の割合は下がったのですけれども、施設における感染の割合が大きく増加したというのが、今回の特徴でございます。

濃厚接触者における感染経路別の割合、年代別で見ていきますと、10代ではですね、同居する人からの感染は、前週 70.7%だったのが 65.5%と、僅かに下がっていますが、やはりまだ多いと。保育園・学校等の教育施設での感染は、前週の 12.1%からほぼ横ばいの 12.7%。

これが 20代から 30代になりますと、会食の感染、これが比率として高まっております、20.5%というところで、一番多い。その次に、同居する人からの感染 18.4%でありました。

40代から 60代の世代では、同居する人からの感染が 33.9%と最も多くて、その次に職場が 15.3%というところになりました。

70代になりますと、大分状況が変わりまして、70代以上では、施設での感染が 39.5%と

最も多い。その次に、同居する人からの感染で 32.6%というところでありました。

今週、一番目を引くところとしては、70 代以上における、介護老人保健施設、あるいは病院等の施設での感染が、実際増えておりまして、その結果、比率としては高いということになっております。

今週もですね、傾向としては同居する方からの感染は非常に多いです。今回、シェアハウスでの感染という報告もありました。

やはり職場、施設、会食での感染、これが多数引き続き報告されています。職場、施設で感染が拡大しますと、結局、そこから家庭内に新型コロナウイルスが持ち込まれるということになります。

職場等で、休憩室等がリスクが高いというのは以前も申し上げた通りでありまして、こうしたところに注意して対策をする必要があると考えています。

また、経済活動が活発化しますと、人も移動しますし、また、感染拡大のリスクを高める機会、密のところに行くような機会が増える可能性があります。そうすると、患者さんが増える。そのことを懸念しております。

人と人がやはり密に接触するところ、あるいはマスクを外して飲食・飲酒を行うと、あるいは大きな声を出すといったところで、リスクが高まるといったところはわかっていますし、今週、偶然ですが、国立感染症研究所からそのような報告が出ておりました。カラオケにおける感染症のリスクはどこにあるのかということが見てありまして、長時間滞在するですとか、やはりマスクを外して声を出すといったところがリスクであるといったところが、非常にわかりやすく書かれておりました。

そういったところでの感染対策が必要と考えております。

また、今週も複数の医療機関、そして職場等でクラスターが出ております。

第一波、いわゆる 3 月 1 日から 5 月 25 日までの状況と比べますと大規模ではありません。ただ、やはり起こってしまうと、後々大変なこととなりますので、院内や施設内感染の拡大防止策は徹底が必要と考えています。

また、今週の特徴としては、事例としては、友人とのレジャーを通じての感染ですとか、ライブハウスですとか、スポーツジム等で感染の報告がございました。

特別養護老人ホームですね、あるいは介護老人保健施設、デイケアの場ですね、病院、訪問看護といった重症化リスクの高い方がいらっしゃる施設で、無症状あるいは症状の乏しい職員さんから、そこから感染が広がるという事例が見られております。

こうしたところで感染が広がりますと、やはり高齢者の感染というものが出ますし、高齢者は非常にリスク高いということがありますので、これは避けねばならないということで、対策が必要ですし、そうしたリスクの高い方、あるいは感染の方を早く見つけるという意味での検査体制の拡充が必要と考えております。

次に①-5 に移ります。

今週の保健所別の届出でありますけれども、大田区が一番多くて 106 人、8.7%でありまし

た。次いで練馬ですね、94人、7.7%、世田谷が84人で6.9%。新宿区が73人、6.0%、江戸川区は70人、5.7%でございました。

今回は、島しょでの発生報告はございませんでしたが、都内全域に広がっているという状況はございます。

次に②に移っていただけますでしょうか。「#7119における発熱等相談件数」であります。

こちらに関しては、7日間平均は前回50.6件からですね、10月7日時点で54.7件、これは横ばいでございました。

次に③の「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」であります。

まず③-1からいきますと、接触歴等の不明者数は7日間平均で、前回の約98人から10月7日時点の約90人と、これは横ばいでございました。

③-2に移っていただけますでしょうか。

新規陽性者数における接触歴等の不明者数の増加比が100を超えるというところは、これは増加傾向の指標でございますが、10月7日時点での増加比は、前回の125.8%から92.5%と下がっております。下がってはおりますが、やはり新規陽性者数は多いですし、増加比は100%に近い状況は続いておりますので、こちらについては引き続き警戒が必要と考えております。

それでは、次に医療体制の強化に移りたいと思います。

④「検査の陽性率」についてお伝えいたします。

7日間平均のPCR検査等の陽性率であります。前回3.8%だったわけですが、今回は10月7日時点で3.1%と低下しております。

7日間平均のPCR検査等の人数であります。前回はですね、4,345.4人でありましたが、今回10月7日時点では、前回とほぼ同じ4,224.4人ということでございました。

ということで、7日間の検査件数の平均、これに関しては横ばいでありましたが、新規の陽性者数は今回減少しておりますので、陽性率としては下がっているというところでございます。

今後、経済活動が活発になって、対策をしなければ感染拡大のリスクが高まる可能性があるわけですが、その中でですね、感染リスクが高い地域ですとか、あるいは重症化するリスクが高い方がいらっしゃる高齢者の施設に対して、感染対策に関する情報提供、あるいは感染拡大抑止の観点から、無症状の方も含めたPCR検査を行うなどの戦略が、今後必要と考えております。

そのために必要なキャパシティとしてはですね、PCR検査については、現在、都で10,200件ですね、検査能力を確保したということを伺っております。

次に、⑤「救急医療の東京ルール適用件数」でございます。

こちらに関しては、7日間平均の件数は、前回の34.4件から10月7日時点では35.6件と、ほぼ同数でございました。

次、6番の「入院患者数」に移ります。

10月7日時点での入院患者数は、前回の1,165人から976人と減少しております、7月23日以来、2ヶ月半ぶりにですね、1,000人を切ったというところでございますが、ほぼ1,000人でありますので、非常に依然として高いというところでございます。

新規陽性者数、あるいは接触歴等不明者数の増加比は、今回下がっておりますが、100%に近いというのは変わっておりませんので、今後増加しないかどうかということで、警戒は必要でございます。

一つあるのは、都の入院調整本部の対応件数のうちですね、保健所だけで対応できない部分を都で調整しているわけですが、約9割以上が無症状の陽性者及び軽症者であります。

これはちょっと奇異に思いますけれども、でも実際には、こういう方々は合併症を持ってらっしゃることが多くて、ですので、やはりその入院先を探すのに調整が必要という状況がございます。

また、宿泊療養施設の医療支援に当たる医師もですね、医師、あるいは他の医療職、これも通常の医療現場から来ていただいて、苦勞して来ていただいているというところです。

取り組みとしてですね、すべての宿泊療養施設において、今、ITを活用して、オンラインで健康観察を行うといった業務の効率化の取り組みが、オンゴーイングで進められております。

⑥-2でございますが、宿泊療養施設、これは3,111室を確保しておりますけれども、10月7日時点での宿泊療養施設の利用者は236人、自宅療養者は380人、入院、療養等調整中が276人ということでございました。

入院の調整に関しましては、保健所から入院調整本部への調整依頼件数が1日50件程度で、これが推移しているというところでございます。

中身を見ていくと、急変したと言いますか、そういった重症患者さん、あるいは認知症、精神疾患といった基礎疾患をお持ちですね、そういう患者さんを受け入れる医療機関は、それなりのスキルが必要なわけですが、そうすると、受入先を探すのに調整が難航してしまうということがありまして、そういう事例の割合が上がっているのと、あともう一つは日祝祭日ですね。一般的に、医療機関は人手も、平日よりは少ないという状況があります。こういう状況であると、やはりその受入可能な病床数は、現実的には少なくなるわけですので、本部の調整も難航するということがございます。

次に「重症患者数」に移ります。

重症患者数でございますが、前回の21人から10月7日時点の24人に増加しております。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者さんが8人、人工呼吸器から離脱した方は5人でありました。残念ながら、人工呼吸中にですね、亡くなった方が2名おられました。

今週、新たにECMOを導入した方が1人、ECMOから離脱した方が2人でございまして、10月7日の時点で人工呼吸器を装着している方が24人、うち5人の方がECMOを使っているという状況でございます。

重症患者数でありますけれども、現在、いわゆる高齢者層、新規陽性者の方に占める高齢者層の割合が高まっているということを非常に気にしております。

その中で、重症患者数が増えているということも、我々非常に気にしております、今後重症患者数の推移に警戒していく必要があると考えております。

⑦-2にお移りください。

10月7日時点での重症患者が24人と申し上げました。これを年代別に中身を見ていくとですね、50代が6人、60代が6人、70代以上が12人でございましたということで、比率でいきますと50から60代が重症患者全体の50%を占めている。

性別では男女比でいきますと20人対4人。男性の方が多いということでありました。これは一般的に見られる傾向でございます。

陽性が判明して重症化、人工呼吸器を着けるまでの平均が3.1日であります。

一度人工呼吸器をつけた後、外すまでの時間の中央値が7日というところでございます。

今週報告された亡くなられた方の数は7人でありました。そのうち70代以上の方が6人だったんですね。今週は、前々週の7人、前週の15人から下がっておりますけれども、注意していく必要があるということを考えております。

以上、長くなりましたが、私からの報告は以上でございます。

#### 【危機管理監】

大曲先生ありがとうございます。

それでは意見交換に移ります。

まず、ただいまお話のありましたモニタリングの分析の内容につきまして、ご質問等ありましたら、お願いをいたします。よろしいですか。

それでは、次に都の対応につきまして、何かご意見等ございましたら、お願いいたします。よろしいですかね。

それでは、会議のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

#### 【都知事】

大曲先生、今日もありがとうございます。

先生方からの分析、コメントをいただいております。

先ほどご紹介があった通りですが、先週に引き続き、「感染状況」については、オレンジ色の「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」、「医療提供体制」については、同じくオレンジで、「体制強化が必要であると思われる」と総括コメントをいただきました。ありがとうございます。

「感染状況」につきましては、新規陽性者数と接触歴不明者数が高い水準で続いているということ。

経済活動の活発化に伴って、感染拡大のリスクが高まるので、警戒が必要であるとのこと。

そして、感染経路であります。家庭内での感染は、依然として最も多い。そして、今週は20代から30代で会食での感染が増加して最多となっていて、70代以上においては、高齢者施設などでの感染が増加しているということでもあります。

それから、重症患者数ですが、高齢者層の新規陽性者数が増加傾向にあることから、今後の推移に警戒が必要であること。

重症患者については、50代から60代が全体の半数で、今週の死亡者7人のうち6人が70代以上ということでもあります。死亡者数は減少しているものの、引き続き注視が必要というご指摘でございます。

これらを踏まえまして、都民や事業者の皆様をお願いでございます。

都民の皆様には、家庭内に感染を持ち込まないように、また職場などにおける基本的な感染防止対策を徹底していただくこと。すなわち、3密の回避、マスクの着用、定期的な換気、そして、帰宅時の手洗いや消毒など、この基本をですね、徹底して万全の対策を講じていただきたいと存じます。

会食ですけれども、長時間の飲食・飲酒、大声や至近距離での会話を控えること。飲食・飲酒の合間には、こまめにマスクを着用するなどの感染防止対策を徹底していただくことでもあります。カラオケの問題点については、先ほど大曲先生から、最新の分析などについてのご報告もいただきました。

重症化するリスクが高いのが、医療施設や高齢者施設内ですが、これらの施設内での感染拡大を防止するために、施設の職員等に対する研修の実施、専門家による支援体制の整備など、都としてもサポートして参りますので、感染防止対策に万全を期していただきたい。

引き続き、都民・事業者の皆様と共に、「防ごう重症化 守ろう高齢者」、この対策を進めて参りたいと存じます。

そして、つい先ほど定例議会が閉会をいたしまして、3,436億円の補正予算が成立をいたしました。

高齢者等のインフルエンザの予防接種の補助としまして、その中から75億円を計上しております。65歳以上の方を中心として、積極的にインフルエンザの予防接種を受けていただきたいと存じます。このように予算については、手当をしているということです。

それから、50代・60代の重症患者も多くなっているの、十分にご注意をお願いいたします。

それから、「医療提供体制」については、患者受入れ体制、合計で2,640床、うち重症用が150、中等症用が2,490床となっております。

そして、次が新しいことではありますが、宿泊療養については、日本財団からお借りいたしました「日本財団災害危機サポートセンター」を活用させていただいて、明日9日にペット同伴者を対象といたしました新たな宿泊療養施設、これは140室・150床になりますが、こちらを開設いたします。

これによって、ペットを飼育されているということで、宿泊療養施設のホテルで受け入れができないと、犬がいるので、猫がいるのでというお話を受けているわけでありましてけれども、こういったことを理由とされる方、無症状や軽症の方でありますけれども、これらの方々、ペットと一緒に受け入れを行うということです。

引き続き、無症状や軽症の方が安心して宿泊療養を行える環境、これを切れ目なく確保して参ります。

これら都民、事業者の皆様には、引き続きのご理解・ご協力をお願いいたすところで、今日は第14回の東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議のまとめとさせていただきます。

**【危機管理監】**

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のモニタリング会議終了いたします。